

共同作業所の いっしょと実践

きょうされん前理事長である著者の、ひかり福祉会での実践記録（『みんなのねがい』連載に大幅に補筆）がメイン。障害児は、養護学校設置義務化以前は学校保健や健康を管理する給食がなく死亡率が高かったが、義務化以降は激減したという。障害者であっても孤立しているより集団生活が求められている。だからこそ「作業所はいのち太らせるところ」なのだ。補助金もない頃から共同作業所を立ち上げ、わずかであった運営補助金を増額させ、共同作業所の全国ネットをつくってきた当事者ならではの願いが伝わる。



立岡 暁著
全障研出版部
定価 1575 円